

二〇二五年度

入学試験問題

(二月三日午後)

国語

- 一 開始の合図があるまで問題用紙・解答用紙にふれないでください。
- 二 開始の合図があったら、最初に問題用紙六ページ、**解答用紙二枚**を確認してください。
- 三 解答用紙に受験番号と氏名を記入してから始めてください。
- 四 問題についての質問は受け付けません。印刷のはっきりしないところや用事があるときは、声を出さずに手をあげてください。
- 五 字数が指定されている問題は、記号・句読点も一字として数えてください。
- 六 問題用紙は回収しません。
- 七 筆記用具の貸し借りはしないでください。
- 八 試験時間は五十分です。終了五分前になったら知らせます。
- 九 答案を書き終わっても座席からはなれないでください。

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

エチオピアを訪れた日本人が最初に戸惑うのが、物乞いの多さだ。街の交差点で車が停まると、赤ん坊を抱えた女性や手足に障がいのある男性が駆け寄ってくる。生気のない顔で見つめられ、手を差し出されると、どうしたらよいのか、多くの日本人は困惑してしまう。「わたしたち」と「かれら」のあいだには、埋めがたい格差がある。かといって、みんなに分け与えるわけにもいかない。では、どうすべきなのか？ これは途上国を訪れた旅行者の多くが抱く葛藤かもしれない。

私も最初に首都のアデイスアベバ（以下、アデイス）にいたとき、街を歩くたびにそんなジレンマに悩まされた。安宿のあるピアッサという地区では、裸足の子どもに「マニー、マニー」と言われながら、付きまとわれた。

私はいつもポケットにガムを入れておくようにした。そして、子どもにせがまれると、そのガムを渡した。欧米人のバックパッカーが、ザックからパンを取り出して配っているのを目にしたこともある。

ぼくらは、こういうときにお金を渡すのに慣れていない。ガムやパンをあげることではできても、お金を与えることには抵抗を感じてしまう。たとえガムのほうが高価でも、わざわざガムを買って渡すことを選ぶ。

それは、これまで書いてきたように、ぼくらが「経済／非経済」

というきまりに忠実だからでもある。

このきまりには、ふたつの意味がある。

ひとつは、お金のやりとりが不道德なものに感じられること。特別の演出が施されていない「お金」は「経済」の領域にあつて、人情味のある思いや感情が差し引かれてしまう。だから、人になにかを渡すとしたら、それはお金ではなく「贈り物」でなければならぬ。^①

ただし「贈与」は、他者とのあいだに生じる思いや感情を引き受けることも意味する。それは「売買」に比べると、なにかと厄介だ。子どもならガムでもいいが、大人にはそうはいかない。贈り物には相手が望むものを選ぶ必要がある。相手を怒らせることもある。だから「贈与」は難しい。^②

もうひとつは、お金がなんらかの代償との「交換」を想起させること。物乞いが、ぼくらのために働いてくれるわけでも、なにかを代わりにくれるわけでもない。^③

「交換」において、「わたしのお金」は「わたしの利得」の代価として使われるべきものだ。そこではきちんと収支の帳尻を合わせる^④ことが求められる。簡単にお金は渡せない。

こうして、日本人の多くは物乞いに「なにもあげない」ことを選ぶ。最近アデイスでよく滞在しているオリンピアの路上にも、何人か「常連」の物乞いがある。このあたりは、大通り沿いにビルが建ち並び、おしゃれな店も多い地区だ。

その歩道で、ひとりの高齢の老婆がよく物乞いをしている。浅黒

い顔に刻まれた深い皺からは、かなりの歳を重ねているように見える。足腰が弱っていて、ゆっくりとしか歩けない。だから歩道中央に突っ立ったまま、道行く人に手を突き出すようにして、お金をせがんでいる。

歩いている人は、たいてい不意に腕や胸のあたりを手で突かれる格好になる。若い男性などは、不機嫌そうに振り返って、睨みつけたりする。でもほとんどの人は、その老婆の姿を（X）のあたりにする、仕方ないという顔になる。そしてポケットから小銭を取り出し、手渡している。

老婆は、当然のように無言でお金を受けとると、また次の人に手を突き出す。いままで、この老婆が物乞いに失敗したのを見たことがない。

エチオピアの人びとは、よく物乞いにお金を渡している。きっとぼくらのほうが豊かなのに、そんな金持ちの外国人が与えずに、あまりもたないエチオピア人が分け与えている。その姿に、ふと気づかされる。

いかにぼくらが「交換のモード」に縛られているのかと。

いまの日本の社会では、商品交換が幅を利かせている。さまざまなものやとりが、しだいに交換のモードに練り入れられてきた。それは、面倒な贈与を回避し、自分だけの利益を確保することを可能にする。厄介な思いや感情に振り回されることもなくなる。

しかし、この交換は、^③人間の大切な能力を覆い隠してしまう。ぼくらは他者と対面すると、かならずなんらかの思いを抱く。無

意識のうちに他者の感情や欲望に自己の思いを共鳴させている。泣いている赤ちゃんを目の前になると、なんだか自分まで悲しくなってくる。なにかしてあげねば、という気になる。人がタンスの角などに足の小指をぶつけるのを見ると、その「痛み」はひとごとには思えない。思わず「あいたたた」と声が出てしまう。

この「共感」が、コミュニケーションを可能にする基盤でもある。身体の弱った老婆を（X）のあたりにして、なにも感じないという人はいないだろう。でも「交換」のモードには、そんな共感を抑え込む力がある。

物乞いのおばあさんがみんなから小銭をもらうのは、彼女だつてどこかでお金を商品と交換する必要があるからだ。どんなに貧しいおばあさんでも、スーパーに行つて商品をタダでくださいと言ってもらえるわけではない。商品交換の場では、そのおばあさんが「貧しそう」とか、「歳をとっている」とか、「身体が弱っている」なんて共感を生じさせる情報は余計なものとして除去される。誰もが透明な存在として感情や思いなしに交換することが求められる。

Y

でも多くの日本人は道端で物乞いの老婆を目にしたときも、この交換のモードをもちだしてしまう。いろんな共感を引き起こしそうな表情とか、身なりとかを見なかつたことにする。まるで北山のおっちゃんへのスーパリーの客や店員の態度のように。

同時にそれは、ぼくらがたんに日本に生まれたという理由で彼らより豊かな生活をしているという「うしろめたさ」を覆い隠す。そ

して物乞いになにも渡さないことを（Z）する。交換のモードでは、モノを受けとらないかぎり、与える理由はないのだから。
④心にわきあがる感情に従う必要はないのだから。

「みんなに与えられるわけではない」。そう思うかもしれない。でも、おそらく金額そのものが問題ではない。道で出会う物乞いへのつど一ブル（約五円）ほど渡したところで、たいした額にはならない。彼らはそれくらいでも、こころよく「神のご加護を」と言っ

て受けとってくれる。
商品交換のモードが共感を抑圧し、面倒な贈与と対価のない不完全な交換を回避する便法となる。ほくらはその「きまり」に従っただけでなにも悪くない。そう自分を納得させている。

あるいは「与えることは彼らのためにならない」と言うかもしれない。これだって同じ（Z）にすぎない。ためになるかどうかは、そもそも与える側が決められるものではないからだ。いろんな理屈をつけて最初に生じたはずの「与えずにはいられない」という共感を抑圧している。共感とその抑圧。これが「構築」を考えるときのポイントになる。

（松村 圭一郎『うしろめたさの人類学』より）

注 葛藤…心の中に対立する気持ちが存在し迷うこと

北山のおっちゃん…筆者がスーパーで見かける客で、身なりが汚く、店員も関わらないようにしていた。

問一 本文中には次の一文が抜けています。どこに入りますか。本文中のⅠ～Ⅲから一つ選び、記号で答えなさい。

このとき「わたし」が彼らにお金を払う理由はない、となる。

問二 — 線部①「贈り物」とありますが、どのようなものですか。

説明したものととしてふさわしくないものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア お年玉などの特別な演出が施されたお金

イ 人情味ある思いや感情が込められたもの

ウ 相手にふさわしく、望まれるもの

エ 自分の利益の代価として使われるもの

問三 — 線部②「交換」とありますが、筆者はここでいう「交換」

の条件として何が必要だと考えていますか。解答欄に合うように本文中から十字で抜き出して答えなさい。

問四 本文中の（X）に共通してあてはまる言葉としてふさわ

しい体の一部を表す漢字一字を、本文中から抜き出して答えなさい。

問五 — 線部③「人間の大切な能力」とありますが、どのような能力ですか。「〜能力」となるように五字以内で簡潔に答えなさい。

問六 本文中の Y に入る一文として最もふさわしいものを、次のア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア それは日本ではスーパーだけだ。
- イ それはエチオピア特有のものだ。
- ウ それは日本ではありえないものだ。
- エ それはエチオピアでも同じだ。

問七 本文中の（ Z ）に共通してあてはまる言葉として最もふさわしいものを、次のア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 活性化
- イ 正当化
- ウ 多様化
- エ 効率化

問八 — 線部④「心にわきあがる感情」とありますが、どのような感情ですか。解答欄に合うように本文中から十字で抜き出して答えなさい。

問九 — 線部⑤「共感を抑圧している」とありますが、物乞いに対して具体的にどうすることで「共感を抑圧している」と筆者は言っていますか。四十字以内で説明しなさい。

問十 波線部「共感」とありますが、本文にあるようにあなたが今までに「共感」によって行動した経験について二百字以内で記述しなさい。

二

次のカタカナの文章を読んで、漢字とひらがなと読点を正しく用いて書き直しなさい。

サツコンニンゲントハナスヨウナカンカクデブン
シヨウサクセイヤジヨウホウシユウシユウヲオコ
ナツテクレルジンコウチノウガオオキナワダイト
ナツテイマス。ドウトクシンヤホウリツノメンデノ
シンパイハアルモノノオオクノバメンデカツヨウサ
レルコトガヨソクサレルノデセンモンカヲマジエタ
ヤリトリガジュウヨウニナルトカンガエラレテイマ
ス。

三

次の(1)～(5)の——線部の漢字をひらがなに、(6)～(10)の——線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- (1) 簡便な方法を選ぶ。
- (2) 両者の実力は紙一重だ。
- (3) 初日の出を拝む。
- (4) 犯罪の片棒を担いでいる。
- (5) 新庁舎を建築する。
- (6) あまり言いわけをしない方がよい。
- (7) 百分の一にシユクシヤクした地図。
- (8) あの人は口がタツシヤだ。
- (9) 国をアげて取り組んでいる。
- (10) トトウを組んで悪事を働く。

四

次の(1)～(5)の()にあてはまる語としてふさわしいものを後の語群から選び、それぞれ()に合うように形を変えて答えなさい。ただし、一度使った語は二度使えない。

- (1) 昨日は雨だったので外では遊ば()た。
- (2) がんばって勉強したのでいい形で試験を受け()ました。
- (3) 母を見るときもうすぐ客が来る()、あわただしい。
- (4) 昨晚夜ふかしをしたのか、今にもねむり()様子だ。
- (5) 君に文章を書か()ば、右に出るものはいない。

【語群】

ない・れる・られる・せる・させる・らしい・そうだ・だ

